

ひらの再発見

～ 昔・今・そして・・・～

平野探偵団通信 第10号 平成27年1月20日

湖上から見た平野学区（雨宮優撮影）

特集 天虎飛行場

昔、平野学区の琵琶湖岸に飛行場があった。その名は「天虎飛行場」。民間パイロットの養成機関として開設された「天虎飛行研究所」が、訓練に使用した水上飛行場のことである。その場所は、今は埋め立てられている西武大津ショッピングセンター前、湖岸道路を挟んだ南側辺りであった。「天虎」は正式には「てんこ」と読むが、大津市民は「てんとら」と呼んで親しんだ。本号では数奇の運命をたどった「天虎飛行場」の足跡を追ってみよう。

■天虎飛行研究所の設立

創立者は当時21歳の青年飛行家藤本直。昭和10年(1935)のことである。彼は昭和9年3月、逓信省海軍依託航空機操縦生を終えて、愛知県知多半島の安藤飛行研究所の教官として赴任していた。藤本は、佐世保を中

心に実施された海軍特別大演習に参加し、対潜哨戒や曲芸飛行等を担当したことが刺激となり、琵琶湖畔に是非とも飛行場を造り、パイロットを養成したいとの思いに駆られる。遂に、昭和10年6月、大津市馬場浜に安藤所長から譲り受けた一三式水上練習機1機と、100坪の格納庫、4坪の事務所、



写真1 琵琶湖に浮かぶ水上初歩練習機

寒さの中で旨さが冴える。

真冬の北海道物産展

■会期:1月21日(水)～2月1日(日) ■会場:6階=催事場

※最終日は午後6時に閉場。

※イトイン/営業時間:午前10時～午後8時

(ラストオーダーは午後7時30分、最終日のみ午後4時)

1月・2月は休まず営業いたします。営業時間:午前10時～午後8時(7階=レストランは午前11時～午後10時) 郵便番号520-8580 滋賀県大津市にの浜2-3-1



大切なあの人に、想いを届けるお手伝い。

バレンタイン チョコパラダイス

■会期:2月3日(火)～15日(日) ■会場:6階=催事場

※最終日は午後6時に閉場。



大津
www.seibu.jp



写真2 天虎飛行研究所跡を望む。昭和30年代の航空写真。中央に白っぽく見えるところ(矢印)が飛行訓練所跡。その左が、現平野小学校



写真3 天虎飛行研究所(訓練所)の入口とその現況 奉迎と書かれたアーチのかかる入口右手の標識には「大日本飛行協会天虎飛行訓練所」とある。現在は堂の川沿いで、東海道の旧道に面していた



写真4 練習機を引き上げる訓練生

所員9名の陣容で「天虎飛行研究所」をスタートさせた。「天虎」の名前は、藤本が寅年生まれであったことと、天(あま)翔(か)ける虎の思いを入れて名付けたという。この時、安藤飛行研究所から同道したメンバーの一人に当時15歳の佐藤生壽(さとうたかなが、1919~2011)がいる。飛行機の操縦にあこがれ、天虎飛行研究所と運命を共にした。彼については、しが民間航空史「近江のイカロスたち」と題して、昭和62年に中日新聞がその生涯を紹介している。彼のご子息は現在、におの浜と湖城が丘に居住されている。

■天虎飛行研究所の事業

逓信大臣より遊覧運送事業の認可を受けて、まず琵琶湖上での遊覧飛行、宣伝等を開始した。次いで、飛行学校のための飛行場の認可も得て、本格的な練習生の訓練を始める。昭和12年には日本で初めて結成された関西アマチュア飛行クラブの練習を請け負うことになり、日本各地から参加者が殺到した。週末になると10数台の高級車が並び、嵐寛寿郎や森光子等映画スターも参加者に名を連ねたという。戦後、関西アマチュア飛行クラブが母体となって日本アマチュア飛行クラブが結成されている。

■天虎飛行研究所の変遷

昭和14年になると、逓信省航空局のパイロット養成機関に指定され、天虎の全施設は官の借り上げとなり、職員も全員官に移籍した。昭和18年には大日本飛行協会の水上飛行訓練所となり、京阪神の大学、高専学徒を受け入れてその訓練にあたった。学生たちは天虎卒業後、海軍予備学生となり戦線に送り出されていった。戦争は激化し、航空機のガソリンも欠乏して日本の敗色が迫る中、昭和19年10月、海軍神風特別攻撃隊の第1陣が出撃、国民に異様な衝撃を与えた。そんな中、天虎の訓練生から前代未聞の特攻志願が起こり、天虎の38名を含む84名の学生が「天虎特別飛行訓練生」として組織され、学生服のまま特別飛行訓練を受けた。しかし、昭和20年8月15日、終戦を迎え、彼らは戦場に散ることはなかった。敗戦から半年後、進駐軍により天虎飛行研究所は飛行場と共に解体され、数奇な運命をたどった天虎10年の歴史は幕を閉じた。

■藤本直の夢

藤本は、天虎飛行研究所の創立時に抱いた民間航空発

におの浜施工例

ダイワテック株式会社
マンション・ビル改修・大規模修繕

より長く、より快適に。
改修工事のトータルクリエイターです。

本社 〒546-0022 大阪市東住吉区住道矢田 8-13-26 TEL (06) 6703-0388 (代) FAX (06) 6703-0361
東京本店 〒136-0071 東京都江東区亀戸 3-44-1 TEL (03) 5875-0028 (代) FAX (03) 5875-0302
ホームページ http://www.daiwa-tec.co.jp E-mail inf@daiwa-tec.co.jp



写真5 佐藤生寿教官



写真6 滑走台 台車に乗せた水上飛行機を湖面に降ろす



写真7 訓練生の食事風景 遠望は埋め立て前の湖岸



写真8 同志社大学の訓練生による天虎の「天」の人文字。同志社、立命、絵画専門学校（現京都市立芸術大学）などから訓練生が集まっていた

展の夢を終戦後も追いつける。昭和 27 年、産業経済新聞社（現サンケイ）の航空部長の職に就き、日東航空を立ち上げる。昭和 39 年には日東航空は北日本航空、富士航空と合併し日本国内航空となり、更に昭和 46 年に東亜航空と合併し東亜国内航空が誕生する。藤本が関与したこれらの航空会社には、常に天虎で苦労した仲間が加わっており、戦後の航空事業発展に天虎飛行研究所の果たした役割は大きい。

■佐藤生壽と天虎飛行場

佐藤生壽は大正 8 年名古屋市に生まれた。少年飛行兵になることに憧れ、小学校高等科 2 年を卒業した昭和 9 年に、つてを得て安藤飛行研究所に入所した。

佐藤の毎日の仕事は飛行練習生のために一三式水上練習機を格納庫から引き出し、海上に浮かべる作業から始まった。憧れの飛行機操縦の実現は遠い話であった。こんな時、一足先に入所していた若干 20 歳の操縦教官藤本直に出会う。

そして、藤本が計画する大津での飛行場開設の話聞き、「一緒にくれば飛行練習もさせてやる」との言葉に魅せられ仲間とともに同道を決意、天虎飛行研究所のメンバーとなった。藤本所長は約束通り佐藤達に自ら操縦教育をしてくれ、単独飛行も許された。昭和 13 年、19 才になった佐藤は二等航空機操縦士の資格を得ると同時に助教を命ぜられ、練習生の教育にあたった。昭和 16 年、佐藤は陸軍予備下士官候補生となり入隊。陸軍飛行場で飛行訓練等の教育を受け、陸軍伍長に任官と同時に除隊し、米子地方航空機乗員養成所に助教として赴任した。そして 4 ヶ月後に太平洋戦争が勃発した。昭和 17 年転勤命令が出て、米子地方航空機乗員養成所天虎分教場と名前を替えた古巣に赴任したが、昭和 18 年に分教場は廃止となり、新たに衣替えをした天虎飛行訓練所が開所された。一等航空機操縦士の資格を得た佐藤は正式に操縦教官に任命され訓練生の訓練に当たった。昭和 19 年、戦局ひっ迫の中、藤本所長に特攻志願した学生達の訓練にあたったのも佐藤であった。

そして、終戦を迎える。佐藤達は藤本所長の指示で、天虎にある全ての飛行機を琵琶湖の沖合に沈めたという。戦後、産経新聞航空部長となっていた藤本から声がかかり、喜んでではせ参じたが、パイロットへの復帰はかたくなに拒んだ。その第一の理由は英語が不得手であったことだという。

（乾真人、橋本順一郎）

【参考文献】「戦争と市民」平成 21 年、大津市歴史博物館発行

【注】写真については、全て参考文献に掲載されている写真で、写真 2 は大津市歴史博物館蔵、写真 3 の左と写真 4～8 は大津市歴史博物館蔵で佐藤生寿氏寄贈。なお、特集作成にあたり、大津市歴史博物館にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

心地よい街を目指して
株式会社 笹川組

地域の植栽、美化活動に取り組んでいます

クリーニング
A Baby Was Born
(有) ミカゲヤ
集配サービス TEL (524) 2092
大津市馬場三丁目 14-54

私の 平野のお薦め

常世川(つねよがわ)再生の会

尾中 克行

常世川再生の会(以後、当会)は、平成21年12月に設立されました。当会の母体は、『常世川を美しくする会』(以後、美しくする会)です。常世川は、浅井山を源流として、東松ヶ枝町、平野町、了徳町と高木町の境を流れ、甚七町内に入り、琵琶湖に注ぐ全長2キロにも満たない川です。この川は、昭和30~40年にかけての名神高速道路の建設に伴い、雨水の影響をもちに受け、度々洪水を起こしました。その為、治水工事が進み、大半の川水が新川(暗渠)に流れ込み、従来の常世川の水量は激減しました。その結果、川は、ゴミの投棄等も伴い“ダブル川”となってしまいました。そこで、昭和62年、常世川の美化を目的に『美しくする会』が地元自治会を中心に結成され、年2回の清掃活動が定例化しました。『美しくする会』は、今も、地元自治会活動の一環として活動しています。

当会は、美化活動からもう一歩すすめて、人と生き物の共生を目指し、川の生き物の住みやすい環境づくりの為に、有志により結成されました。

当会は現在、以下の3点を重点的に実施しています。

- ① 4月~11月まで月1回の清掃活動
(コンクリート化した川底に土を残す活動)
- ② 6月の生き物調査と8月の子ども達の魚つかみ大会
- ③ 河川内に草木の植樹と生き物環境の再生

今後の課題としては、魚の遡上を可能化する為の魚道づくりと水量を増やす為の分水筒所の改修依頼、会員の若返りと新規会員獲得、活動資金の確保などがあげられますが、未来の子ども達が常世川に親しみを感じ、生き物の住み続ける川である様、今後も活動していきます。



魚つかみ大会の様子

がんばってます

レイクスの応援をお願いします

滋賀レイクスターズ広報担当

平野学区の皆さん、プロバスケットボールチームの滋賀レイクスターズ(以降レイクス)はご存知でしょうか?試合をご覧いただいたことがある方、名前だけは聞いたことがあるという方、初めて聞いたという方おられるかと思いますが、今回は皆さんにレイクスを知って頂くべく紹介したいと思います。

滋賀レイクスターズとは

2008年8月8日設立のプロバスケットボールチームにして、滋賀県唯一のプロスポーツチームです。2008-2009シーズンより、日本プロバスケットボールリーグ「ターキッシュエアラインズbjリーグ」に参戦しており、2014-2015シーズンで7年目のシーズンを迎えました。現在チームには#5 小川伸也選手(長浜出身)、#7 井上裕介選手(栗東出身)、#23 横江豊選手(草津出身)、#1 岡田優選手(大津出身)と4人の滋賀県出身選手がいます。(#は背番号のこと)

滋賀県で行われる試合は、平野学区のすぐお隣にある滋賀県立体育館をはじめ、草津、守山、野洲、彦根、東近江といった滋賀県各地で開催しており、敵地で行われる試合も含め1シーズン52試合を戦い、上位チームが進出するプレイオフを経て優勝チームを決めます。レイクスは5シーズン連続でプレイオフに進出していますが、未だ優勝には手が届いておらず悲願の初優勝をかけての戦いが続きます。

滋賀県立体育館は皆さまのお住まいのすぐ近くですので、試合の時は是非応援に来て下さい。



「私の平野八景」募集中!

平野学区にお住まいの皆様オススメの“お気に入りの風景”の写真を募集中です。募集期間は3月25日まで。詳細は平野市民センターにあるチラシをご覧ください。お待ちしております!主催 平野学区わが街つくる会

【編集後記】今号で10号になりました。平野学区のミニコミ誌として、これからもがんばりたいと思います。ご意見、ご感想をお聞かせください。広告の掲載も募集中です。よろしくお願ひします。「われら平野探偵団」は、ただ今、団員募集中です。(M)

発行・編集 われら平野探偵団(青地一郎、雨宮優、雨森鼎、市吉登美一、乾真人、上田正雄、岡本眞佐美、奥村武史、尾中克行、木村浩、杉中靖、竹吉恭子、谷口英信、戸所新太郎、中井義次、西部鉄夫、橋本順一郎、樋口康子、堀井博樹、森川稔)

連絡先 090-6058-3919、jemmi.m@rondo.ocn.ne.jp(森川)

後援 平野学区わが街つくる会

次号は「これからの平野学区」特集

高齢者にやさしいパソコン教室

何時間居ても、何回来てても 4,500円/一ヵ月!

ぜひ駅前パソコンITサロン



株式会社 日本ビコム

は「平野学区」の街づくりを応援しています。 077-527-5681 <http://www.n-bcom.co.jp/>

パソコン・スマホ/タブレット超初心者大歓迎!

図書館みたいに自由に来られて、分からない事をしっかりと聞きたい、パソコンやIT機器の困り事を一緒に解決してくれる便利な隠れ家?!

私たちは、同じことを100回聞かれても笑顔で答えます。